

⑯ 日本国特許庁 (JP)

⑯ 特許出願公開

⑯ 公開特許公報 (A) 昭62-179376

⑤Int.Cl.¹
A 24 F 13/06識別記号
厅内整理番号
8114-4B

⑦公開 昭和62年(1987)8月6日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑧発明の名称 パイプ

⑨特願 昭61-20052

⑩出願 昭61(1986)2月3日

⑪発明者	高津	和夫	東京都府中市美好町2-27-43
⑪発明者	高津	教	東京都府中市美好町2-27-43
⑪発明者	高津	政幸	東京都府中市美好町2-27-43
⑪発明者	高津	賢	東京都府中市美好町2-27-43
⑫出願人	高津	和夫	東京都府中市美好町2-27-43
⑫出願人	高津	教	東京都府中市美好町2-27-43
⑫出願人	高津	政幸	東京都府中市美好町2-27-43
⑫出願人	高津	賢	東京都府中市美好町2-27-43

明細書

1. 発明の名称

パイプ

2. 特許請求の範囲

内部に液体入りカプセルとフィルターを収納したことを特徴とするパイプ。

3. 発明の詳細な説明

この発明は、煙草の味をよくしたり、「ニコチンを除去する」とができない、或いは葉煙用に利用することができるパイプに関するものである。

煙草には煙に含まれるタール、ニコチン、一酸化炭素による害があり、喉、肺、心臓等の発生源となる他、末梢血管を収縮させて心臓血管系や腎に悪影響を及ぼし、或いは全身的酸素不足を招くこと等は衆知のことであるが、強力な習慣性を有するため喫煙者が禁煙するることは至難である。そして葉煙用パイプは、ミントモンやハーブ等の香料を吸道材に含浸させて内在させたパイプが市販されており、上記パイプは葉煙の目的だけを保有され、煙草を吸うこととは

でない。

この発明は煙草の味をよくしたり、「ニコチンを除去する」とができない、或いは葉煙用に利用することができるパイプを提供することを目的とするものであつて、上記目的に沿うこの発明のパイプは、内部に液体入りカプセルとフィルターを収納したことを特徴とする。

以下この発明の実施例を添付図面を参照して詳細に説明する。

第1図はパイプ(例の断面図である)。Aはパイプ本体、Bはパイプ本体の一側に着脱自在に嵌着した吸口、Cはパイプ本体の他側に着脱自在に嵌着した栓である。尚パイプ本体Aは底部に通孔1を設けた有底円筒状空器2内に液体入りカプセル3とフィルター4を収納し、蓋5を嵌着したもので、空器2の側壁部にはその両側に夫々空器2と外部を連通させる流入孔6と流出孔7がL字型に設けられ一方、側壁部を貫通して連通孔7が設けられており(第2回参照)また栓Cには上記流入孔に連通する空気孔8が

設けられており(第3回参照)。栓Cまたはハ'イフ'本体Aを回転せると、空気孔8は連通孔7に連通するようになる。尚栓Cにはハ'イフ'本体1の通孔1を貫通する尖鋸部5が設けられており、圓筒状鋸部5が通孔1を貫通して液体入りカフ'セル3を突き取る瞬間を示す。液体入りカフ'セル3が取れると内部の液体が流れ出してフィルター4に吸込まれる。

上記液体入りカフ'セルの液体には水、香料、甘味料、華液のうちの1または2以上を併用することができます。香料にはハ'イカ、三十ニ、バナナ、レモン等の香料やグラニーデー或いはライスキー等を、甘味料には黒糖液等を、華液には呼吸器用華液等を併用することができます。これらの中には液体または液体をカフ'セルに充填しておくことがあります。カフ'セルの先端に液体を浮かべておこ、その外周に超可塑性合成樹脂等可塑性物質の被覆層をつくり、揮発物を液化せたり、管の中に液体を入れておき両側を熱加熱して密閉する等によりつくることができます。

第5回は3個のハ'イフ'本体A、A'、A''を連続し、その一側に吸口Bを施し、他側に栓Cを取付けたハ'イフ'1例を示す。ハ'イフ'本体Aのみに空気または煙を流入させてから液体をせるとときは、栓Cの空気孔8とハ'イフ'本体Aの流入孔6を連通させ、ハ'イフ'本体Aの流出孔6'やハ'イフ'本体A'の連通孔7を連通させ、更にハ'イフ'本体A'の連通孔7とハ'イフ'本体A''の連通孔7を連通させればよい。第7回はハ'イフ'本体A'のみに空気または煙を流入させてから液体をせるとこの、第8回はハ'イフ'本体A''のみに空気または煙を流入させてから液体をせるとこの連続状態を示す。以上説明したように、ハ'イフ'本体は複数個連結して使用することができ、ハ'イフ'本体を回転させることにより所要のハ'イフ'本体のみを利用することができます。例えはハ'イフ'本体Aにハ'イカ、ハ'イフ'本体A'に三十ニ等、ハ'イフ'本体A''にグラニーデーを入れてある場合、ハ'イカの各リを楽しみたいときは第6回の連結状態が、三十ニを楽しみたいときは第7回の連結状態が

吸口Bを口にくわえ吸い込むと、空気は空気孔8、流入孔6を経て容器2内に吸引され、流出孔6'、吸口Bを介して口中に吸込まれ、フィルターに吸込まれて抗酸した液体が香料であれば香料が口中に抗がって香氣を発してニッカドモ、甘味料であれば甘エガ口中に抗がり、華液であれば華を吸入して華効を得る。また真線で示されるように煙草10を持着して火を行き喫煙すると、液体が水であれば煙が水煙草のようにニコチン等が除去され、香料や華液であれば香氣を発し華効を得るニッカドモ、甘味料であればマイルド尼煙を煙草することができます。

以上ハ'イフ'本体1個を使用したハ'イフ'について説明したが、第5回には栓C同様に尖鋸部5が形成されており、第4回に示されるように複数のハ'イフ'本体を連結して使用することができる、尖鋸部5は溝持するハ'イフ'本体の通孔1を貫通して液体入りカフ'セルを突きつけて内部の液体をフィルター4に吸込まれる形態である。

グラニーデーが楽しみたいときは、第8回の連結状態で使用する。尚実施例では流入孔6と流出孔6'を並列に、これと連通孔7を並列に、2列に配置したが、孔列は3列でも4列でもよい。通常のハ'イフ'本体に連結させることにより、複数のハ'イフ'本体内に煙または空気を流入させた例えはハ'イカとグラニーデーを同時に楽しむこともできる。

この発明は前記のよう構成され、煙草の味をよくしたり、ニコチンを除去することができます。華煙用として利用することができればうがりが、液体に華液を併用するときは華効も期待されることがで、複数のハ'イフ'本体を連結することにより好みの香り等を楽しむことができます。華の効果を有する。

4. 図面の簡単な説明

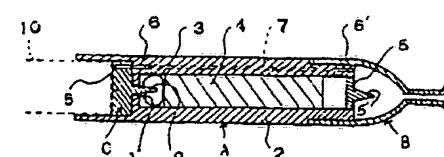
第1回はハ'イフ'1例の断面図、第2回はハ'イフ'本体の断面図、第3回は栓の断面図、第4回はハ'イフ'本体の連結部を示す断面図、第5回はハ'イフ'1例の側面図、第6回～第8回はハ'イフ'

本体3個の連結管構造3例を示す説明図である。

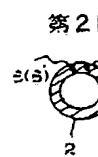
3--液体入りカバセル

4--フィルター

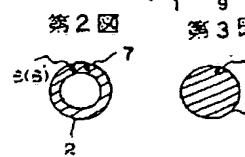
特許出願人



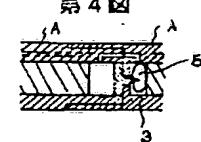
第2図



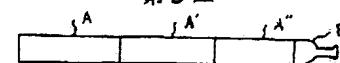
第3図



第4図



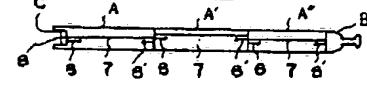
第5図



第6図



第7図



第8図

